

## 一つの握手、米玖関係を改善か？

12月10日、南アフリカ共和国のヨハネスブルグで、アパルトヘイト、人種差別との戦いに生涯をささげた、ネルソン・マンデラ元南ア大統領の追悼式が挙行されました。式には世界各国から100人近い首脳級が参列しました。その中で、米国のオバマ大統領、キューバのラウル・カストロ議長、ブラジルのルセフ大統領ほか、中国、インド、ナミビアの6か国の首脳が代表して弔辞を述べました。

### 追悼式で両首脳握手

ところが、追悼式の際、国交のない米国とキューバの元首、オバマ大統領とラウル議長が、



初めて握手する場面が生じました。1961年に両国の国交が断絶した後、首脳が握手をしたのは、2000年9月国連のミレニアム首脳会議の昼食会で、クリントン大統領とフィデル・カストロ議長が握手をしたのが初めてで、それ以後は、公式の挨拶はありませんでした。

CNNのニュース画面や写真を見ると、式に際して、オバマ大統領は、小雨が降る競技場のグラウンドから、駆け足で階段を上り壇上に着くと、ためらうことなく、第一番目の席に座っているラウル議長に近づき、身をかがめ手を差し



伸べて握手し、数秒の間、いくつかの言葉を交わしました。オバマ大統領も笑顔で挨拶し、ラウル議長も、微笑みながら何事かを述べ、うなずくしぐさをしました。この数秒の両国元首の握手が、米玖関係の改善への第一歩としてビッグニュースと扱われ、またたくまに、世界を駆け巡りました。しかし、ビデオでも二人の会話の内容は、聞くこ

とができず、読唇術をもった人がビデオを見て、どう読み解くだろうかという嘆きのコメントも行われています。

### 両国のコメント

まずは、それぞれの側からのコメントを見てみましょう。

米国のホワイト・ハウスは、「オバマ大統領のカストロ議長との挨拶は予定されていたものではなく、自然に起きたものであった。大統領が演壇に向かったとき、その途中ですべての人々と握手したが、それは各国の指導者と挨拶する以上のものではなかった」と、帰国途上の大統領専用機エア・フォース・ワンで、ベン・ロード国家安全保障担当副補佐官が述べています。また、同日、下院外交政策委員会でケリー国務長官は、共和党のロス＝レチネン議員(キューバ系アメリカ人)が、「なぜ血なまぐさい独裁者カストロと大統領は握手したのか」と



ロス＝レチネン議員

批判したことに答えて、「オバマ大統領の握手によって、米国の対キューバ政策は何ら変わらない。マンデラの追悼式であり、オバマ大統領は、そこにいる人を選ぶことはできなかった。大統領個人の関心とは関係なかった。大統領は、演説の中で、世界の指導者は、国民の基本的人権を尊重しながら、自由を求めて戦ったマンデラを称賛するとともに、反政府行動を許容しなければならないと強調した。ラウル・カストロは、基本的人権を全く尊重していない」と、述べています。米国政府は、この出会いが計画されたものではないという立場ですが、米国では一般に政治家や識者の間では、カストロ兄弟政権をどう見るかで評価が 180 度違ってきます。

一方、キューバ側は、ラウル議長がコロンビアのラジオ放送「ラ・FM」との短いインタビューで、「(握手したのは)ごく普通のことです。私たちは、文明人ですから。追悼式での私の演説を読んでもいただければ、それが分かると思いますよ」と答えています。また、



政府系のウェブサイト「クーバデバテ」では、両首脳の握手の写真を掲載し、「このイメージが米国のキューバに対する侵略の終わりの始まりとなってほしいものである」とコメントを付け加えています。キュー

追悼式でのオバマ大統領、ラウル議長、ルセフ大統領

バ共産党中央機関紙のグラ

ンマ紙では、「ラウル・カストロは、オバマがこれまでになかったことだが手を差し出したときに、笑みを浮かべた」とのコメントを付けて両首脳が握手している写真を掲載し、好意的に報道しました。またフィデル前議長は、「ラウル同志の毅然とした威厳ある素晴らしい行動を祝福する。和やかな態度ながら、毅然として米国の大統領にあいさつし、『大統領閣下、私はカストロです』と英語で話した」と称賛しています。同時にフィデル

は、「帝国主義というものは、ほんの少しのモノや資源を提供しながら、常にわが国を屈服させるためにいろいろなカードを保持しているものである」と警告しています。キューバ側では、識者も一般にこの「握手」を肯定的に見ています。

これら以外のコメントを、両国の政府は、現在まで行っていません。

### 追悼式での両首脳の弔辞

それでは、両首脳は、追悼式の弔辞で何を述べたのでしょうか。オバマ大統領は、マンデ



追悼式で演説するオバマ大統領

デラの人種差別とたたかった生涯を称賛しつつ、「マンデラのような人は、囚人を解放しただけでなく、看守も同様に開放したのである。マンデラの自由を求める戦いと連帯を主張するが、自分自身の国民の反政府行動を許容しない実に多くの指導者がいる。われわれの声が聞かれなければならないときに、われわれの多くが傍観者であったり、満足に安住していたり、シニシズムに陥ったりしているのである」。

この発言は、米国では、暗にキューバの政治体制をも批判していると報道されています。

ラウル議長は、「マンデラは、ラテンアメリカ・カリブ海諸国にとって、最高の模範であった。革命闘争の最高のシンボルであり、団結、和解、平和の預言者であり、アパルトヘイト反対の戦いと新しい国づくりを指導した。キューバには、アフリカの血が流れており、奴隷の解放と奴隷制の廃止のために共に戦った。それゆえ、キューバ国民は、アフリカの諸国民にとって特別の地位を占めているのである」と、キューバの奴隷制廃止と人種差別反対の戦いの歴史を強調しました。



追悼式で演説するラウル議長

### 握手のシーンの分析

ここまでが、公式の握手シーン、コメント、追悼式の演説ですが、それでは、客観的にはそれらをどう解釈したらよいのでしょうか。

まずは、両首脳が、まったく普通のように握手し、挨拶していることです。2000年にクリントン大統領と握手したフィデル議長は、「彼と会わないようにするために逃げることはできなかった。他の人に対すると同じように、私は数秒立ち止まり、威厳と礼儀をもって彼に挨拶した。もしそうしなかったら、非常識だし、礼儀に欠けていたであろう」と後ほど語っています。今回、米国側も、国務省は当然追悼式へのラウル議長の出席、6人の演説者の中にラウル議長がいることも知っていたはずですが。そうした状況の中で、オバマ大統領も立ち止まることなく、ラウル議長の前に進み手を差し出しことがビデオでうかがわれます。ラウル議長がいうように、こういう国際的な舞台の場合は、「文明人である両首脳の間ではごく自然なこと」なのです。



#### 12月21日マドゥーロ大統領の訪問を受けたフィデル前議長→

このことは、イランと米国の対話・交渉が行われるようになり、北朝鮮とも6か国協議再開に向けて模索が続けられており、ラテンアメリカでは、キューバが中南米・カリブ海共同体(全33か国加盟)の議長国を務めている現在の世界の状況の中で、両国が半世紀にわたり停止画面のように対決したままであることがむしろ異常なことを示しています。

そうした、両国の本来あるべき関係が、この両首脳の挨拶には映されており、あるべき両国関係の改善に期待を込めて、各通信社、メディアによってビッグニュースが世界に流れたのでした。

#### 両国の間に横たわる積年の問題

しかし、両国の間には、積年の問題が存在しています。世界193か国中の188か国の反対を受けている米国の対キューバ経済封鎖、革命後収容された米国資産の補償、マイアミに15年に渡り不当に長期収監されている4人のキューバ人諜報員の問題、ハバナに2年にわたり収監されている米国の諜報員アラン・グロスの問題、米国政府によるキューバ国内の反政府勢力への支援、グアンタナモ米海軍基地、人権問題、国際郵便協定、バカルディなどの商標問題などあります。これらを前提条件なしで包括的にはなしあうよう、キューバ政府は米国政府に繰り返し提案しています。しかし、米国政府は、その提案を無視しています。

#### 米国側の主張

それでは、現在のオバマ政権の対キューバ政策はどういうもののでしょうか。

11月8日、オバマ大統領は、マイアミの集会で、対キューバ政策を見直しする必要があるとして、次のように述べました。

「米国は、キューバに対して半世紀以上も禁輸措置をとっているが、今や対キューバ政策を見直す時期かもしれない。われわれは、創造的でなければならないし、思慮深くな



|                |     |
|----------------|-----|
| Voting Result: |     |
| Yes            | 188 |
| No             | 2   |
| Abstain        | 3   |

ければならず、引き続きわれわれの政策を新しいものにしなければならない。カストロが権力を握ったとき、私は生まれたばかりであった。したがって、1961年に採択した同じ政策（国交断絶、それに続く1962年の経済封鎖一筆者註）が、インターネット、グーグル、世界旅行の時代に、依然として効果があるという考えは意味

国連総会で評決を占める電子ボード

がない」。

すると、11月18日ケリー国務長官が、「米国の西半球政策」について、次のように述べました。そこには、米国のキューバ政策の真の目的が述べられています。干渉主義的立場が語られており、モンロー主義はなくなっていないと指摘される所以です。

「（もはや、モンロー主義の時代は終わったと述べたあと）何がわれわれの統一した目標であるか、否定できないと思う。グアテマラ、コロンビア、米州全体で一歩ずつわれわれの民主主義は強化され、われわれの国民はより確信を深めている。そしてほとんどの点で、皆さんは私の見解と一致するであろう。つまり、西半球は、私が述べた方法で民主主義を成功裏に追求することで一致している。しかし、例外がある。それは、キューバだ。オバマ大統領が政権について以来、キューバと新たな関係を模索し始めた。



ケリー国務長官

先週彼が述べたように、キューバとの関係については、我々は、創造的でなければならない。思慮深くななければならない。そして、われわれの政策を引き続き新しいものにしなければならない。

（人的交流、農産物のキューバへの輸出、家族送金によってキューバの体制の変化を図っていることを述べたあと）西半球では、どこの市民もみずからの指導者を自由に選ぶ権利をもっているが、キューバ人だけはそれができない。西半球では、国民は、逮捕されたり暴力を受けたりする恐れがなく自分たちの指導者を批判できるが、キューバ国民は、まだできない。もし、変化が速やかに行われなければ、21世紀の間、引き続きキ

キューバ国民は取り残されるだろう。キューバ政府がより広範な政治改革案を受け入れ、キューバ国民が自由に自らの将来を決定できる日が来ることを願っている」。

このケリー国務長官の発言は、オバマ大統領の発言とは、かなりの温度差があるように見受けられます。

しかし、もともと、ケリー国務長官は、ラテンアメリカを自らの「裏庭」（専有支配権をもった庭の意味）と考えています。本年5月米下院外交政策委員会で、「ラテンアメリカは、われわれの裏庭であり、強力に対処しなければならない。できるだけ一連の国々の行動を変えるようにしたい。それらの国々とは近年一種の断絶が起きているからである」と述べ、直ちにラテンアメリカ諸国から、干渉主義として猛烈な批判を浴びたことは記憶に新しいところです。本年12月、ベネズエラで地方選挙が終わり、マドゥーロ政権が着実に地歩を固める勝利を収めた後も、「選挙は概ね基準を満たしていたと思う。しかし、国民の多くが考えたような種類の変化、野党の地滑りの勝利は起こらなかった。マドゥーロの授権法がメディアに否定的影響を与え、メディアを全面的に支配したからである。授権法は権利の乱用であり、市民の表現の自由という人権を制限するものである」と述べ、ベネズエラ政権から、「それでも関係改善を望むのか」と反論されました。なお、ジェイコブソン国務次官補も、本年3月ベネズエラ大統領選挙の前に、「ベネズエラの選挙は開かれた、公正で、クリーンで透明でなければならないが、それは難しいであろう。野党のカプリーレス候補を支持しているわけではないが、大変良い大統領となりうる」と、ここでも干渉的な発言を行い、ベネズエラ政府から批判されています。つまり、米国務省は、一貫してキューバや、ラテンアメリカの左翼政権に対しかなり保守的な見解をもっているのです。

### キューバ側の主張

一方、ブルーノ・ロドリゲス、キューバ外相は、オバマ政権になって、金融部門では経済封鎖は、オバマ政権下でむしろ強まっていると指摘しています。実際12月12日、米国財務省は、スコットランドロイヤル銀行が、イラン、スーダン、ミャンマー、キューバと取引を行ったとして、1億ドルの罰金を課しました。

しかし、キューバ政府は、繰り返し、前提条件なしの包括的な交渉を提案しています。本年10月国連総会でキューバのロドリゲス外相は、キューバ政府の原則的な立場を次のように明確に述べています。

「最近の移民、郵便問題の対話の再開、あるいは石油の漏出への対応行動、海上・航空事故の際の捜索や救助、航空の安全など相互に関心あるテーマについて話し合いは、前進し、可能であり有益であることを示している。キューバ政府は、平和と相互尊重に基づく共存の意志の表現として、両国関係の正常化に向かって進む用意があることを改めて表明する。平等、われわれの独立への全面的な尊重に基づいて、真摯で、建設的な対話を実現する用意があることを再確認する」。



国連で演説するロドリゲス外相

12月21日キューバの国会の閉会演説で、ラウル議長は、「われわれは、米国に政治・社会制度を変えるべきだと要求はしないし、またわれわれの制度を交渉の対象とすることを受け入れることはできない」と述べつつ、上記のキューバの原則的な立場を、再度強調しました。

### オバマ政権の対キューバ強硬策の背景

それでは、オバマ政権の強硬な対キューバ政策は、どこからきているのでしょうか。それは、まず第一に米国の議会に、上院3名、下院で4名、合計7名のキューバ系議員がおり、キューバ・ロビーを形成し、対キューバ政策について強硬な意見を展開していることです。米国の選挙区で第4位の大票田であるフロリダ州には、キューバ系アメリカ人が130万人（約7%）住んでいます。多くは反カストロ政権の立場に立っており、選挙で大きな影響力をもっています。これらのキューバ系議員は、米国在住のキューバ系米国人の強い利益代弁者なのです。

また、国務省には、オバマ政権の第一期時代にタカ派の長官のヒラリー・クリントン人脈が築かれ（オリバー・ストーン）、キューバ政策は、保守的なものとなっています。最初の国務長官は、ヒラリー国務長官でしたが、現在のケリー国務長官まで、対キューバ政策の実質的な政策担当責任者である西半球担当国務次官補は、トーマス・シャノン（2005年10月～09年11月）、アルトゥーロ・バレンスエラ（2009年11月～11年8月）、ロベ



↑クリントン前刻長官から任命を受けるジェイコブソン次官補

ルタ・ジェイコブソン（2012年3月～）と3人が担当していますが、いずれも保守的

な立場をとっている人物です。ジェイコブソン国務次官補は、国務省生え抜きの人物で、もともと軍民関係、人権問題、海外援助、麻薬対策問題が専門ですが、かつて、西半球局のキューバ問題責任者を務めていたことがあります（1993-94）。この時期、米国は、ジュネーブの国連人権委員会（UNCHR）でキューバの基本的な人権状況を非難する決議を採択させています。また、経済封鎖政策が、クリントン政権のもとで強化されるとともに、93年には3万5000人が米国に向かって出国する大量出国事件が生じています。

ジェイコブソン国務次官補は、昨年6月インタビューでキューバ問題に関して次のように述べています。

「キューバで改革が行われているが、経済面での小さな改革で政治改革は未だ行われていない。キューバ国内の人道主義グループ、文化人グループ、教会との関係を推進していきたい。キューバの市民社会との関係を推進したい。禁輸措置の解除については、禁輸法は、解除するためには政治的改革が必要であると述べている。キューバには、複数の政党もなく、新聞の自由もない。もっと大きな変革、別な変革がなければならない」。

これは、米国の政策の推進のために、キューバ国内の勢力と連携をとり進めていくというもので、内政干渉を赤裸々に語ったものです。こうしたジェイコブソンの考え方は、これまで一貫して維持されています。このことが理解できると、先に挙げたケリー国務長官の発言の真意も理解できることと思います。

しかし、上記のように、両国の主張は噛み合っていません。それは、キューバ系米国人歴史家のルイス・ペレス教授が、「米国の指導者は、キューバが米国に従わないことが許せないのである。自分たちには民族自決権と国家主権があると確信しているキューバ人の反応を認められないのだ」と指摘しているように、問題は、米国側がキューバの民族自決権、国家主権を認めるかどうかにかかっているといえます。

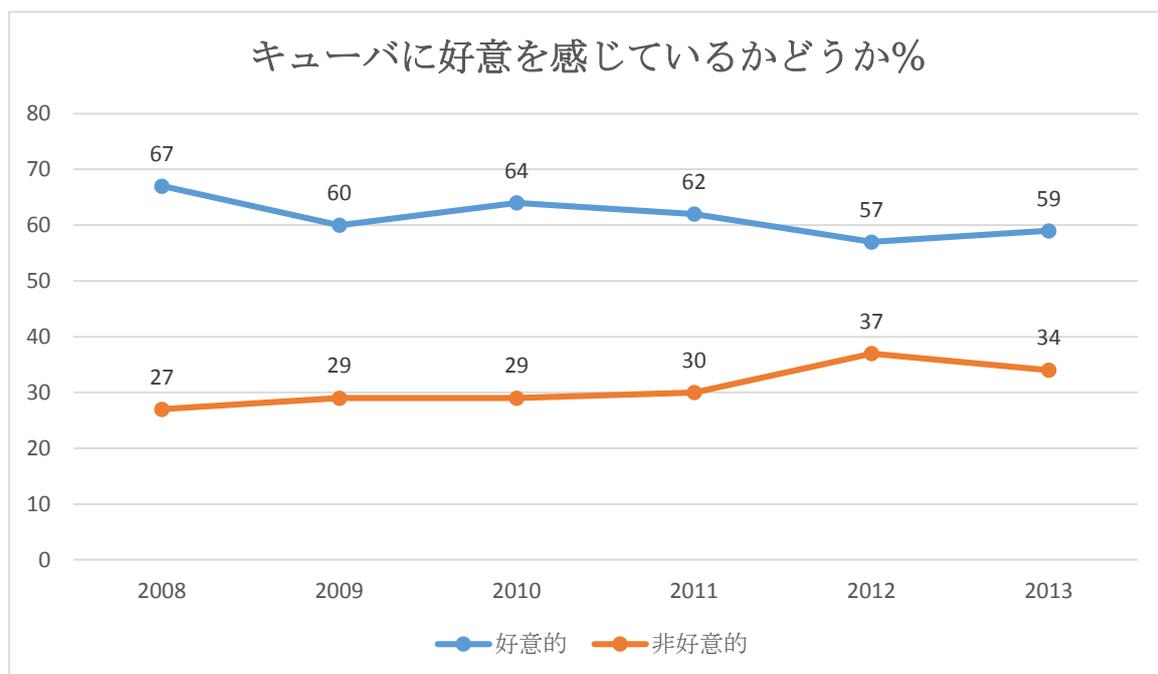
### 米国市民の意思と米国政府・議会の行動とのねじれ

ところで、キューバ問題については、米国の一般市民と米国の政界、政治家たちの間には、大きなねじれがあるようです。両首脳「握手後」の最近の世論調査によると、米国国民の44%がキューバとの国交回復を支持し、反対なのはわずか25%のみです（表4参照）。ギャラップ世論調査によりますと、米下院外交委員会のケリー国務長官とロス＝レチネン議員との反キューバ的なやり取りと違って、もともとアメリカ国民は、キューバに対して

半数以上（60%近く）の国民が好感を抱いているのです（表1）。米国の不当な対キューバ禁輸措置は、国連加盟国 193 か国中 188 か国が反対しており、米国市民も半数以上が反対しています（表3）。禁輸措置賛成派は、3分の1程度なのです（表3、表4）。したがって、国交回復は、最近では6割以上の国民が支持し、反対は3分の1程度です。

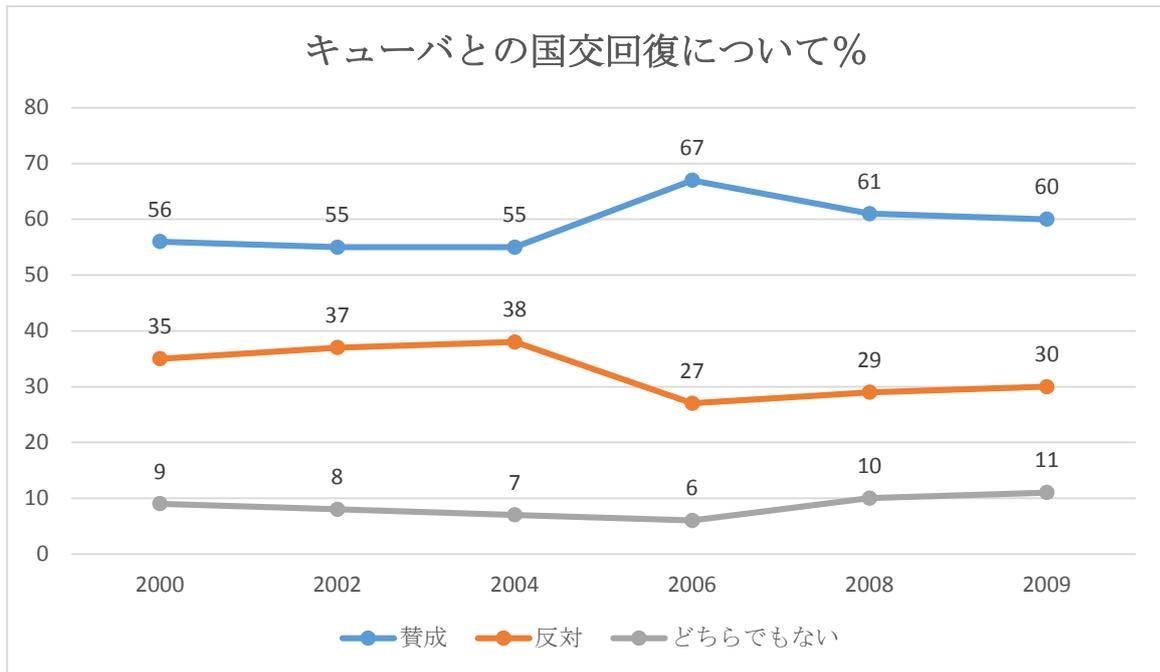
今回のオバマ大統領とラウル議長の握手の様子は、両国の当然あるべき姿を示しているもので、両国国民の大多数の意思を考えると、何ら不自然なものではありません。米国の政府・議会も、国民の意思を正確に把握して、対キューバ政策を再検討する時期に来ています。米国が、ラテンアメリカ諸国と真に対等なパートナー関係、友好関係を築くためには、キューバとの国交回復は、最後で、最大の課題となっているのです。

（表1）



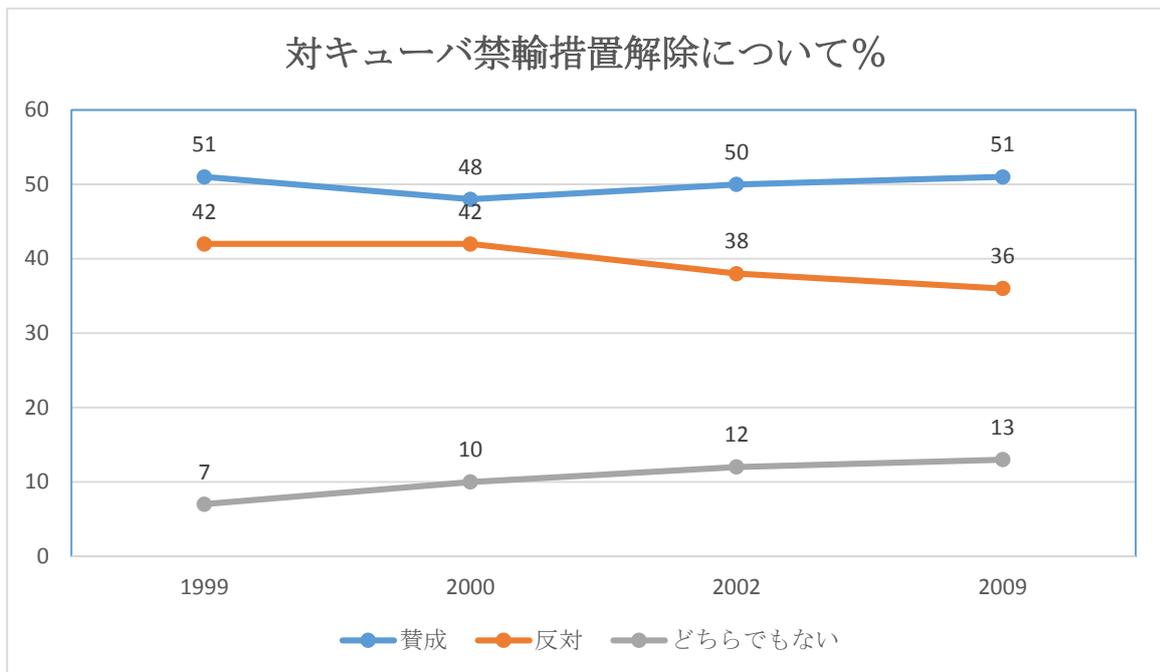
出典：ギャラップ世論調査

(表 2)



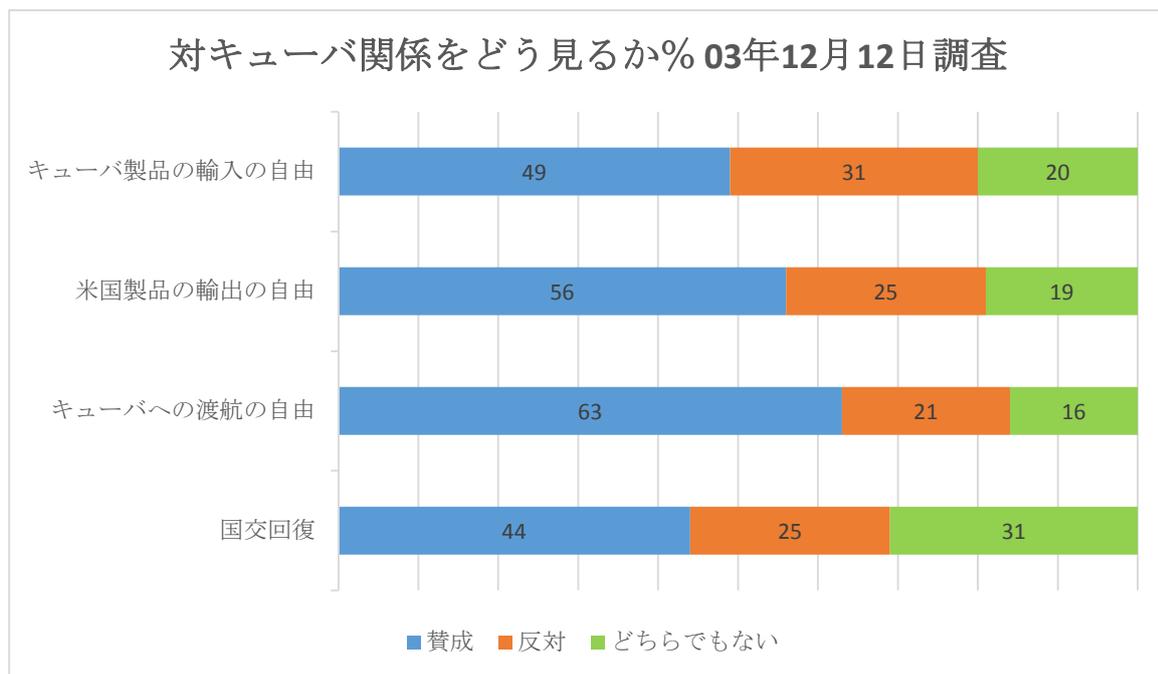
出典：ギャラップ世論調査

(表 3)



出典：ギャラップ世論調査

(表 4)



出典：YouGov

(2013年12月22日 新藤通弘)